

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1965
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.58, No.10 (1965. 10)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19651001--001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19651001--001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学



# 三田學會雜誌

1965年 10月号

## 論 説

- 社会政策論序説 ..... 黒川 俊雄 1  
 ——労働経済論への一批判として——
- 第一インターナショナル形成期における  
 マルクスとエンゲルス (その二) ..... 飯 田 鼎 19  
 ——イギリス労働運動とマルクス主義——
- 日本資本主義の再生産構造分析試論 ..... 井村喜代子 45  
 北原 勇  
 ——昭和35年「産業連関表」を手がかりとして(四)——
- コールリッジとミル(一) ..... 由良 君美 114

## 資料・研究ノート

- 最近のゴドウィン研究文献 ..... 白 井 厚 125  
 ——特に *Godwin's Letters of Verax*  
 by B. R. Pollin について——
- 低開発国問題に関する最近の展開について ..... 深 海 博 明 139  
 ——国連貿易開発会議をめぐる論議を中心として——

## 書 評

- シードマン他著『労働者の組合観』 ..... 二 瓶 恭 光 160

## 新刊紹介

58 卷 **10** 号

# MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 58, No. 9

September, 1965

## CONTENTS

### Articles

- Marx and Engels in the Formative  
 years of the First International ..... *K. Iida* 1  
 ——Nation, Class and Structure in Marxism——
- Analysis of the Reproduction Structure  
 of Japanese Capitalism ..... *K. Imura* 27  
*I. Kitahara*  
 ——An Approach from "Inter-industrial  
 Table of 1960"——
- Adam Smith and Edmund Burke (3) ..... *A. Shirai* 105  
 ——On their views on society and economic thoughts——
- Book Review
- Japan's Attitude towards Kennedy  
 Round, by Kiyoshi Kojima ..... *H. Fukami* 129

Published for  
**KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI**  
 (The Keio Economic Society)  
 Editorial Communications to be sent to  
 the Editor, Keio Gijuku Keizai Gakkai,  
 Keio University,  
 Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.  
 Price 120 yen

新刊紹介

- ロジア・モーガン著  
『1864年から1872年までのドイツ  
社会民主主義者と第一インターナショナル』……飯田 鼎 165
- 大山敷太郎著『鉱業労働と親方制度』……飯田 鼎 166  
——「日本労働関係論」鉱業篇——
- 鎌倉 昇著『日本経済論』……松浦 保 167
- 滝沢菊太郎著『日本工業の構造分析』……佐藤 芳雄 169  
——日本中小企業の一研究——

社会政策論序説

——労働経済論への一批判として——

黒川俊雄

はしがき

従来わが国において労働問題研究が社会政策学のなかでおこなわれてきたことに対して、最近根本的な批判ないし疑問が提起され、むしろ労働経済学あるいは労働経済論として研究がおこなわれるべきである、という主張が、社会科学、ときには「マルクス主義」の名においてとなえられている。

このような視点で、まず問題を提起されたのは、東大隅谷三喜男教授である。教授は、「賃労働の理論について——労働経済学の構想——」<sup>(1)</sup>という論文の中で、戦後のわが国における社会政策論に言及され、「この論争は、労働問題の社会科学的研究においては、ほとんど何もものもつけ加えなかった。論争が社会政策論の本質規定について展開され、社会政策学の内容たる賃労働自体の問題が問題とされなかったからである。」と指摘された。なるほど戦後の社会政策論については私もみのり多いものとは思わない。しかし教授は、剰余価値生産の問題を、資本の視点からのみ基本的な問題とし、賃労働の視点からは前提されるにすぎない、とみて、搾取関係には直接ふれない賃労働の理論を構成し、上部構造としての国家権力